

鶴岡市の出生数、婚姻数、未婚等 若者が住み続けられる政策が必要

鶴岡市の出生数は年々減少し、平成26年（2014）では900人でしたが、令和5年（2023）には618人（▲31・33%）に減少しました。

「官製婚活」

令和7年度鶴岡市重要事業要望書から）
15歳以上の未婚者は、男性が1万4752人（28・85%）、女性が9374人（16・64%）です（令和2年国勢調査、配偶関係別人口データから）。

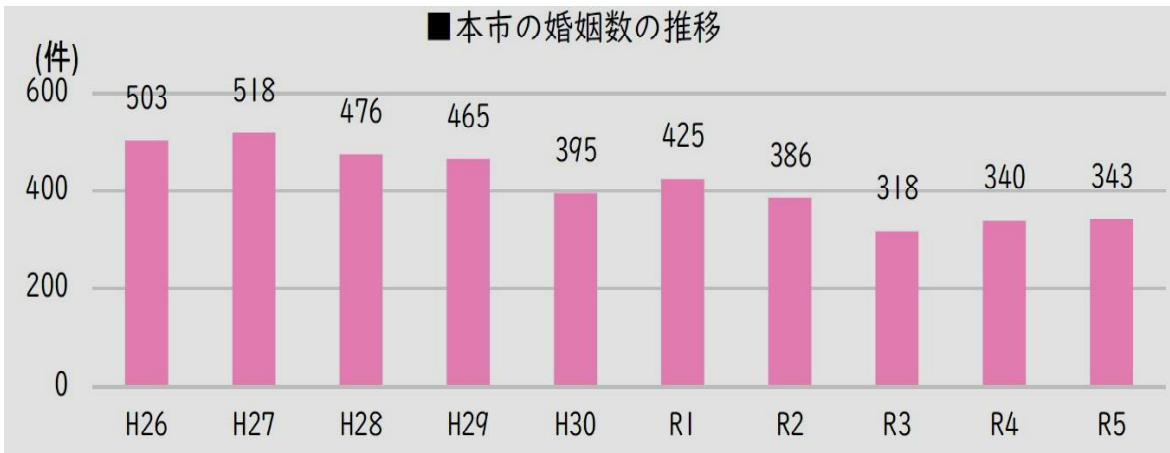
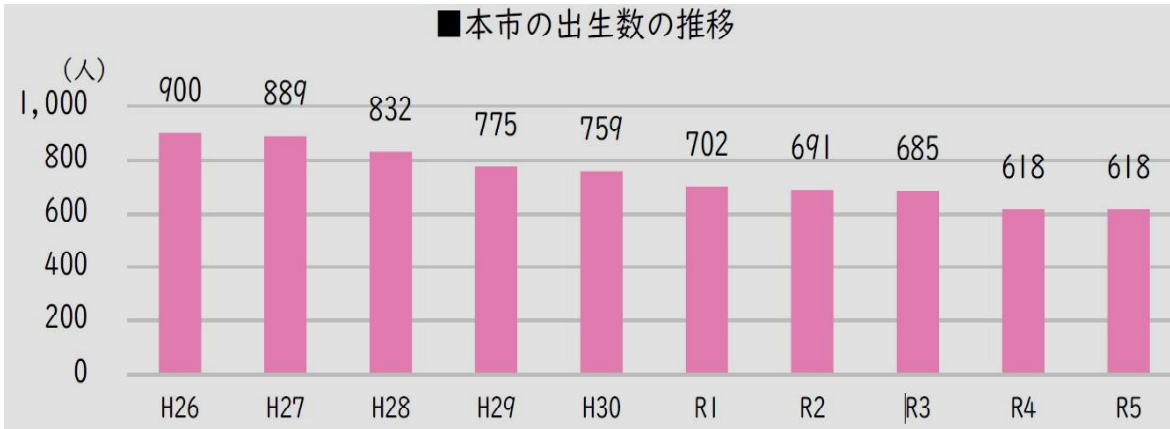
鶴岡市では、「つるおおか婚活支援ネットワーク」を設立し、ボランティアで結婚の世話焼きを行う「つるおおか婚シェルジュ」を養成し、世話焼き活動を展開しています。

令和6年3月31日現在のゼロ歳児は、552人でした（住民基本台帳）。

婚姻数は、平成26年（2014）では503件でしたが、令和5年（2023）には343件（▲31・80%）に減少しました。（図）

岸田政権は「異次元の少子化対策」を打ち出し、「こども家庭庁」を新設して、加藤鮎子代議士を内閣府特命担当大臣（こども政策）に据え、婚活支援を管轄していくとしています。

しかし、「官製婚活」は、個人が誰といつ結婚するか、しないか、子どもを持つか、持たないか等の、個人の性



（令和7年度鶴岡市重要事業要望から）

令和2年国勢調査 人口等基本集計から
鶴岡市の日本人男女の配偶関係別人口（5歳階級、15歳以上）

		総数	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
総数	0_総数	107,468	5,293	3,876	4,303	5,274	6,219	7,188	7,995	7,412	8,041	8,904	10,152	9,785	23,026
	1_未婚	24,126	5,281	3,500	2,768	2,148	1,770	1,597	1,670	1,395	1,155	988	787	538	529
	2_有配偶	62,128	5	258	1,347	2,842	4,001	4,925	5,431	5,046	5,793	6,655	7,676	7,105	11,044
	3_死別	13,412	-	3	3	2	14	32	47	117	227	435	854	1,391	10,287
	4_離別	6,210	1	22	76	185	348	515	717	733	781	737	732	640	723
	5_「不詳」	1,592	6	93	109	97	86	119	130	121	85	89	103	111	443
男	0_総数	51,134	2,980	2,108	2,296	2,739	3,141	3,748	4,063	3,674	3,948	4,381	5,050	4,700	8,306
	1_未婚	14,752	2,976	1,940	1,632	1,320	1,099	1,043	1,061	931	823	748	615	363	201
	2_有配偶	31,085	-	109	564	1,293	1,881	2,419	2,641	2,350	2,708	3,177	3,851	3,752	6,340
	3_死別	2,042	-	1	-	-	1	7	15	27	38	83	194	260	1,416
	4_離別	2,408	-	2	20	63	105	197	269	296	326	314	326	269	221
	5_「不詳」	847	4	56	80	63	55	82	77	70	53	59	64	56	128
女	0_総数	56,334	2,313	1,768	2,007	2,535	3,078	3,440	3,932	3,738	4,093	4,523	5,102	5,085	14,720
	1_未婚	9,374	2,305	1,560	1,136	828	671	554	609	464	332	240	172	175	328
	2_有配偶	31,043	5	149	783	1,549	2,120	2,506	2,790	2,696	3,085	3,478	3,825	3,353	4,704
	3_死別	11,370	-	2	3	2	13	25	32	90	189	352	660	1,131	8,871
	4_離別	3,802	1	20	56	122	243	318	448	437	455	423	406	371	502
	5_「不詳」	745	2	37	29	34	31	37	53	51	32	30	39	55	315

的自己決定権をないがしろにし、人権を尊重しなければ、逆効果になる心配があります。

つまり、結婚したくてもできない若者が増加したからです。平成大合併で、行政機能が縮小し、学校統廃合や、商店街の衰退が進んだことも、少子化が一気に進んだ要因となりました。

派遣労働などの非正規雇用が進み、内閣府の2010年調査では、非正規雇用の30代男性の既婚率は5・6%と、正規雇用の29・3%をはるかに下回っています。

若者が住み続けられる住宅供給や、地域の小学校を守り、身近な子どもの遊び場をつくり、仕事と農業の育成が大切です。

藤島地域では、三川町から定住人口の取り合いに負ける事態になっています。

若者が住み続けられる住宅供給や、地域の小学校を守り、身近な子どもの遊び場をつくり、仕事と農業の育成が大切です。

宝谷地区に行く市道で土砂崩れ

16日(木)に櫛引地域の宝谷地内で土砂災害が発生し、午後7時42分に櫛引庁舎に報告がありました。

市道松根羽黒線(スーパー農道)から宝谷集落への通行ができなくなり、う回路は、宝谷たらのき代線、及び松根宝谷線となりました。

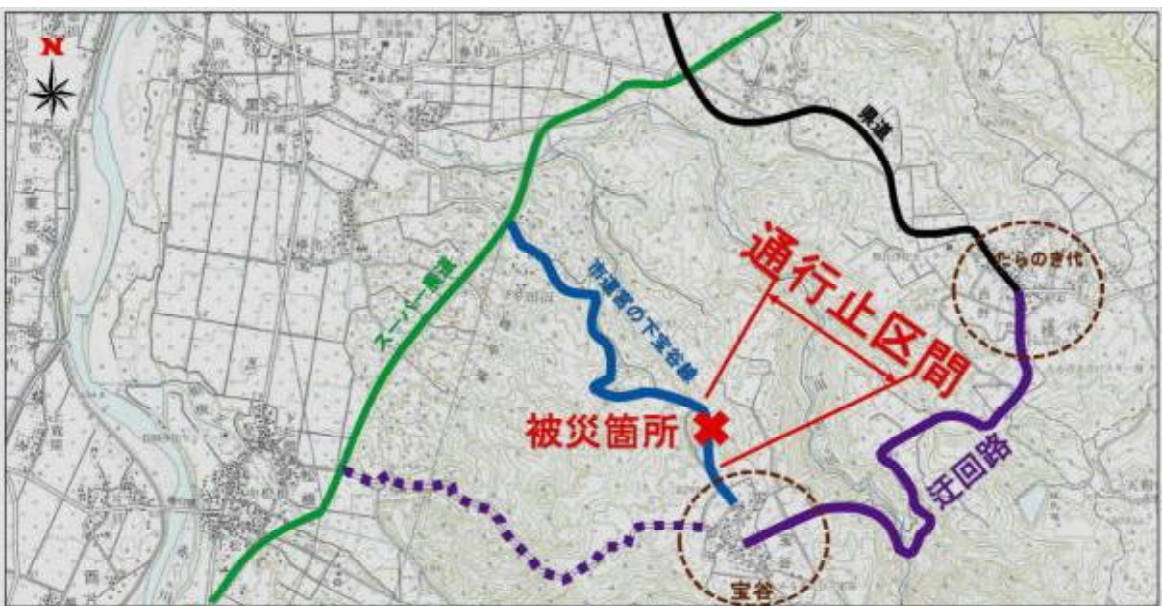
櫛引スクールバス住民混乗の運行も、ルートが変更されました。

土砂災害は、民家から約600m離れた市道「宮ノ下宝谷線」で、幅員7mの道路を約50mにわたって、崩れた

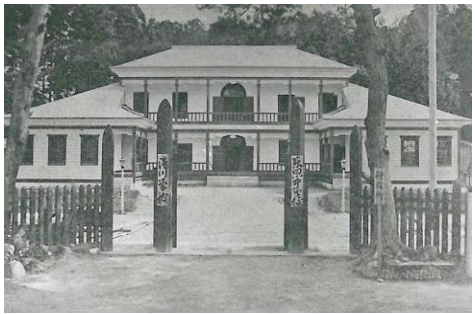
土砂が高さ2mも覆っています。

土砂崩れは、雨で山側の法面の地盤が緩み、強風で木々が押されて崩れたとみられています。

市の土砂災害警戒区域にはなっていないませんでした。
(写真：加藤鉦一議員、17日7時頃)



市道宮の下宝谷線の通行止め区間(赤線箇所)。迂回路は、たらのき代からつながる宝谷たらのき代線と、松根からつながる松根宝谷線(市の住民説明会資料から)



東田川郡 清川学校

東田川史跡物語 郡境越えに盛大な奉迎

青山 崇

1881(明治14)

年7月30日、東京を出発した奥羽・北海道巡幸一行350名ほどは、同年9月22日、秋田から新庄で山形に入り、行在所・最上郡役所に着いた。

翌23日、巡幸のため開削した最上川左岸沿いの磐根新道を通り、東田川郡に入った。急いで完成した東雲

橋の上の郡境まで出迎え、長沢郡長は配下の者・戸長・県会議員らを率いて奉迎した。

午後、行在所である2階建洋風の清川学校(写真)に着いた。郡民は、最上川の網漁をご覧にいれ、黒川村農民は400年の歴史を持つ猿楽を奏上した。

天皇は体調をくずしご覧できなかったので、翌日再度奏上し50円を賜ったという。巡幸の目的である天



政治改革を求めて

その日は、明治7年という年号を多く聞く日でした。明治7年で思い出すのは、小学校の創立記念日の歌です。そこには、明治7年今日の日を 萬代かけて祝うなり・とあったものです。これを8月1日だったかに毎年唄ったものでしたから。

▲明治7年とでたのは、ワッパ騒動義民顕彰会が行ったゆかりの地めぐりでの説明です。今から150年前の1874年(明治7年)のワッパ騒動で農民たちが集まった羽黒と藤島の場所をめぐり、豊かな歴史を再発見しようといわれたものです。

▲ご存知のようにワッパ騒動とは、県(当時は酒田県)が農民から徴収する税金を、全国的に現金で納めて良いのに米で納めさせた。米は値上がりしたから、高く売った米の差額を

皇と国民の融和がはかられたこととして、巡幸一行は大変悦んだという。

翌24日、東田川郡役所に向け出発した。最初の駐輦所は、狩川城主の北楯大学利長の菩提寺である見龍寺であった。



猿楽の流れを汲むが、いずれの流派にも属さない黒川能

取り戻す農民の闘いの事で、ワッパ一揆と言っているものもある。ワッパとは、木を薄くして作ったご飯を入れる昔の弁当箱。これに一杯のお金が戻るヨという権力者との闘い。

▲裏金自民党のように権力は、お金に問題が。それを取り戻す為に農民の団結を語り、県に代表を送る為にも多くの結集が。その場所が藤島でいえば東堀越の新山神社や藤島城址の八幡神社と六所神社。関連地も回ったんだ。

▲俺は地元においても知らなかったが、添川からの手向道の端(現マツバ化成株の向かい)に添川の加藤和助寿碑というものが立っていた。土台石に名前がある3人、渋谷勘助・赤沢岡右衛門・上林九右衛門は、肝煎の加藤和助を援助した主だった人でしょうか。もっと知りたいが。(石川)

